

平成 27 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 幸和会	代表者	理事長 横尾 幸久	法人・ 事業所 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の本当の気持ち(ニーズ)を理解し、思いやりのある対応を心掛けています。 ・利用者様もスタッフも、明るく笑顔でいっぱいの雰囲気作りを目指しています。 ・職員への研修を充実させて、介護の質の向上を図っています。 ・地域の行事やイベントに積極的に参加しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ふるる	管理者	清家 研一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	5人	3人	0人	0人	0人	0人	4人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今回が初めてです	今回が初めてです	<ul style="list-style-type: none"> ・「スタッフの個別評価」の資料を見ましたが、どの職員さんも良く取り組んでいる事が確認できました。項目によっては、スタッフさんが回答のしようがない項目もあり、大変だったと思います。例えば、医療機関・訪問看護・福祉用具等の他事業所との会議への参加、自治体や地域包括センターとの会議への参加は難しく、回答に苦慮されたと思います。何故なら介護職員・看護職員は、現場の利用者様の対応(介護・看護の業務)や家族様の要望への対応がメインになるからです。 ・7月のカンファレンスで、「事業所自己評価」について話し合ったとの事で、職員の意見が反映されていることが分かりました。出席も 2/3 以上されています。 ・「自己評価」することで、今まで気付かなかった改善点が見つかり、スタッフさんにとっても良かったのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員、看護職員、ケアマネジャー、管理者間の連携をカンファレンスや申し送り等を通じて図っていきます。 ・資源の活用として、外食や喫茶店への外出レク等の企画を増やしていきます。

<p>B. 事業所の しつらえ・環境</p>	<p>今回が初めてです</p>	<p>今回が初めてです</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「日中、事業所の門や玄関にカギはかかっていますか？」という質問は、「利用者様の尊厳」を重要視する上でも、大変貴重な質問ですが、一方で、認知症の方が、職員が気付かないうちに、玄関の外へ出られて、交通事故や迷子になるリスクを考えた場合、果たして理想論だけで、施設運営ができるのかどうか課題だとお思います。 ・事業所の良さは、職員さんの「あいさつ」を含めた接遇(態度)が大きく影響するかと思います。その意味において、小規模多機能ふるるは、職員さんがとても明るく元気で優れていると思います。地域の口コミでも評判が良いのも、まず第一にはこの職員さん達が優れているからではないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の玄関は、開放されていて誰でも入ってくることはできませんが、施設内から外へは、リスク防止の為、スイッチを押さないと扉が空かないシステムになっています。ただ、それでも利用者様が知らない間に出て行く可能性はあるため、事務所のスタッフや他の利用者様にも協力を仰ぎ、全体で見に行くようにします。
<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>今回が初めてです</p>	<p>今回が初めてです</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が地域と関っていく事は大変重要なことだと思います。小規模多機能ふるるは、毎日、利用者様と外出(散歩、外食、お茶、演奏会等)しており、外出先で地域の方や友人に会う事もあるので、地域資源の活用が良くできていると思います。 ・地域とのかかわりは、利用者、職員が外へ行って、地域のイベントに参加する場合と、地域の方が、事業所に来訪してイベントに参加する場合とがありますが、ふるるは、その両方ともできていると思います。 ・特に改善すべきところは見当た 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域のイベントや行事に積極的に参加して行きます。

			らないので、今後も今まで通り、沢山の地域のイベントや行事に参加して行って欲しいと思います。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今回が初めてです	今回が初めてです	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出向いて本人の暮らしを支えることは、身体的或いは精神的障がいをお持ちの方々に対して行うわけですから、決して簡単なことではない様に思います。その中で、ふるるでは例えば、昔からよく行っていたカラオケのある「喫茶店」に本人様を(職員が援助の元)お連れし、利用者様が昔懐かしい話を店主と楽しみながらカラオケをされている事をお聞きし、まさに「本人の暮らしを支えている」のだと感じました。職員さんも「たとえ利用者様が障がいをお持ちでも、諦めさえしなければ、以前の若かりし頃の生活が送れるのだなあ」という事を実感しているのではないのでしょうか。 ・地域に出向く場合、事業所の職員主動で、参加する地域のイベントを決める場合もありますが、それだとその利用者様が本当に望んでいることなのかを蔑ろになるリスクがあるので、やはり基本ベースは、その利用者様の馴染みの場所や友人に会いに行く事を優先すべきだとは思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様本人が住んでいる地域の方を交えた会議に、介護職員も参加出来る様に努力します。
E. 運営推進会議を活かした取組み	今回が初めてです	今回が初めてです	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を盛んに行なうためにも、この運営推進会議の役割はとても大きいと思います。地域のイベントに参加された場合は、 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に改善点はなし。

			<p>一緒に利用者様と楽しむ事はできますが、事業所の内情や収支状況について、イベント会場で話し合う事はできませんが、この会議では、その様な事業所内の問題点等についても知ることができ、私達も大変有意義な会議に参加させて頂いています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内の問題点について、率直にふるるから出して頂いており、またそのテーマについて話し合いを行なうことで、次の改善に繋がっていると思いますので、運営推進会議は、今後も継続して行っていくことが大切です。 	
F. 事業所の 防災・災害対策	今回が初めてです	今回が初めてです	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・災害対策は、事業所内での年2回の「防災訓練」だけでは解決できないと思います。やはり、地域全体で考えるべき問題であり、事業所内で火災があれば、地域の人達が救助にいくし、逆に地域(近所)で火災があった場合は、事業所にも助けを求めらるので、お互いに協力することが大切です。 ・事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）に関しては、確かに私たちが見ても分からないので、つまり何も評価のしようがないのですが、どのように書かれているのかは興味があるため、次回の改善策として、計画すれば良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）を評価者に提示するようにします。